

平成 30 年度第 4 回長崎市総合教育会議 会議録

- 1 日 時 平成 31 年 3 月 25 日（月）16 時 00 分～17 時 13 分
- 2 場 所 第二応接室（市役所本館 3 階）
- 3 出席者 **【市長】**
田上市長
【教育委員会】
橋田教育長、中西委員、坂本委員、小原委員、吉松委員、野本委員
- 4 事務局 **【市長部局】**
企画財政部政策監、都市経営室長、同室主幹、同室係長
【教育委員会事務局】
教育総務部総務課総務係長
学校教育部長、同部学校教育課長、生徒指導係長、同課指導主事
- 5 次 第
(1) 開会
(2) 内容
①意見交換事項 キャリア教育について
②その他
(3) 閉会
- 6 議 事 以下のとおり

事務局 (市長部局)	【16:00 開会】 ただいまから、平成 30 年度第 4 回長崎市総合教育会議を開催いたします。お手元に配付しております次第に沿って、市長から進めさせていただきます。
市長	今年度第 4 回ということで、今年度最後になります。1 つ目、意見交換事項として、キャリア教育についてです。 まず、①の長崎版キャリア教育の考え方についてですが、昨年の 3 月からこれまで 3 回にわたって長崎市版キャリア教育をテーマにしている

<p>事務局 (市長部局)</p>	<p>いろにご意見をいただきました。そのご意見を踏まえて長崎市版キャリア教育の考え方について、事務局の方で体系図にまとめましたので、ご意見をいただければと思います。事務局から説明をお願いします。</p> <p>それでは、キャリア教育についての①長崎市版キャリア教育の考え方について説明いたします。資料1ページをご覧ください。</p> <p>キャリア教育につきましては、これまで3回の会議で意見交換を行っております。(1)の平成29年度第2回(3月20日)の会議では、教育委員会が取り組んでいるキャリア教育推進事業や商工部が取り組んでいる「若年者雇用に向けた取組み」、まちに関心を持つ取組みとして「長崎LOVERS」について説明し、委員の方から宮崎県日向市の「よのなか教室」の取組みについてご紹介いただきました。</p> <p>次に、(2)今年度の第1回(6月1日)の会議では、前回の会議を受けて幅広い意味でのキャリア教育について、これまで市長部局、教育委員会が取り組んでいる事業、市長部局延べ44事業、教育委員会延べ30事業を項目ごとに紹介し、意見交換しました。</p> <p>会議の中では、「長崎市版キャリア教育」は、一般的なキャリア教育である職業の力をつける(職業的自立)、就職に関するものだけでなく、教育大綱の基本理念である「長崎の未来を創るひとづくり=まち(社会)を支える<当事者>を育てる」につながるものが幅広くキャリア教育の対象になるのではないかという意見が多く出されたところです。</p> <p>そして、(3)今年度の第2回会議(9月20日)では、これまでの2回の会議内容を踏まえ、総合教育会議における長崎市版キャリア教育の考え方をまとめることとし、「長崎市教育大綱」の基本理念や、「中央教育審議会」、「新学習指導要領」における「キャリア教育の定義」を踏まえたうえで、「長崎市版キャリア教育」は、中教審や新学習指導要領で位置づけられているキャリア教育より幅広く、また、キーワードとして、「担い手を育てる」、「学校、家庭、地域」、「長崎のまちを愛する」などを盛り込んで考え方をまとめました。</p> <p>資料1ページ下段の四角囲みのおり、「長崎のまち(社会)を支える「担い手」を育てていくため、学校、家庭、地域が一体となって、児童・生徒に様々な価値観や生き方を学ぶ機会を提供することにより、児童・生徒が社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力やグローバルな視点を身に付けるとともに、長崎のまちを愛する気持ちと、それを行動に移す力を養う教育」とまとめました。</p> <p>また、長崎市版キャリア教育という呼び方も変えて、わかりやすいネー</p>
-----------------------	---

ミングを付けた方がよいとの意見も出されました。

その後、総合教育会議でまとめていただいた考え方を踏まえ、長崎市版キャリア教育を市全体としての施策として推進していくため、都市経営室、教育委員会において検討を進め、今後の展開として取りまとめたものが、資料2ページの2です。

行政だけでなく、学校・家庭・地域が一体となって「まちを支える担い手を育てる」ことに取り組むという考え方は、

よかまちづくり基本条例の「長崎のまちをみんなでつくる」、「自分たちのまちは自分たちでよくする」。

第四次総合計画の「G1-3 学校・家庭・地域の連携による教育の充実を図ります」。

長崎市教育大綱の基本理念の「長崎の未来を創るひとづくり」と同じ方向性であり、これまでもこれらの方向性に沿って様々な事業に取り組んできております。

今後は、それぞれの事業主体が同じ方向を向いて、意識を持って取組みを進めていくため、総合教育会議でまとめた「社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力」、「グローバルな視点」、「長崎のまちを愛する気持ちとそれを行動に移す力」の3つの資質・能力とそれを身に付けるための要素を、長崎市版キャリア教育として体系付けます。

また、子どもたちが身につけるべき力を適切に高めることができるよう子どもの発達段階に応じて事業に取り組むことで、長崎市版キャリア教育を推進することとします。

資料3ページをご覧ください。これは、長崎市版キャリア教育を体系化したものを図示したものです。

まず、1番上に「長崎のまち（社会）を支える担い手を育てる」を目指す姿として定め、その目指す姿を実現するために必要となる資質・能力として「社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付ける」、「グローバルな視点を身に付ける」、「長崎のまちを愛する気持ちとそれを行動に移す力を養う」と3つにブレイクダウンしています。また、その3つの区分ごとに必要な資質、能力を身に付けるための要素として考えられるものをそれぞれブレイクダウンしました。

例えば「社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付ける」ためには、「まちを知る、人を知る、自分を知る、職業を知る、生活体験をする、力を合わせる体験をする」ことの6つの要素が必要であると、ブレイクダウンしました。

次に、下線より下の「長崎市版キャリア教育に係る取組方針と取組事例」

<p>事務局 (教育委員会)</p>	<p>ですが、上の部分で体系付けたものを、具体的に推進していくために、2つの取組み方針を定めました。</p> <p>1つ目は、「長崎のまち（社会）を支える担い手を育てる」という目標に向けて、長崎のまちに対する誇りや、長崎で活躍する人へのあこがれを抱くことができる取組みとする」こと。2つ目は、「子どもたちが身につけるべき力を適切に高めることができるよう、子どもたちの成長段階に応じて適切に事業を構築する（成長に合わせて高度化・専門化する）」としました。</p> <p>また、2つ目の取組方針「子どもたちの成長段階に応じて適切に事業を構築する」について、長崎市版キャリア教育の主なターゲットと考えている小学生の低学年から高校生までの成長段階に応じた取組みの目標をまとめております。</p> <p>一番下の小学生低学年では、「知る力」を身に付けることを目標として、自分に身近な人やまちを「知る」ことを目的とした取組みをスタートし、小学校中学年では「知る力を高める」。高学年では「知る力をより高め、力を合わせる」ことと、「考える・伝える力」を身につける」ことを目標として、学習や体験事業などを通して、人やまち、社会のしくみなどの「知る」ことの幅をさらに広げるとともに、力を合わせて活動することの大切さを理解する取組みなどを行うこととします。</p> <p>最終段階の高校生では、「社会的・職業的に自立する資質・能力とグローバルな視点を高め、長崎のまちを愛する気持ちとそれを行動に移す力を養う」まで、成長段階に応じて高めていくこととしております。</p> <p>資料の右側は、現在、長崎市が既に取り組んでいる「長崎のまち（社会）を支える担い手を育てることにつながる事業」を、今回定めた体系と成長段階に応じた取組みの目標ごとに記載していますのでご参照ください。</p> <p>このように、長崎市版キャリア教育の体系付けや取組方針を明確にすることにより、今後、市役所の各所属や地域、企業などが「長崎のまちを支える担い手を育てる」という目指す姿に向けて取り組む際の指針とすることができると考えております。</p> <p>次に、資料4ページについては教育委員会から説明させていただきます。</p> <p>それでは、資料4ページ参考資料は教育委員会が推進していますキャリア教育をイメージ図としてまとめたものです。</p> <p>イメージ図の下の方には、「学校教育の中で実践しているキャリア教育」を、常時指導、間接指導、直接指導という3つの指導に分類してまとめて</p>
------------------------	---

	<p>います。その中で、「直接指導」、いわゆる「特別活動や総合的な学習の時間などのキャリアに直接かかわる指導について詳しくまとめているのがイメージ図の上の段になります。これまでの総合教育会議で話し合われた内容を踏まえながら、学校教育の中で実践されるキャリア教育に関わる教育課程、あるいは教育委員会の施策を、小学校低学年から中学校3年生までの9年間の発達段階にあわせた縦の構造化を図りながらまとめたものです。</p> <p>ご承知のように、学校におけるキャリア教育については、学習指導要領を踏まえ、各教科の授業や特別活動など、教育活動全体を通して行われるものであり、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質や能力を育むことを目的とするものです。自立に必要な能力については、上から三段目にある「人間関係、社会形成能力」、「自己理解、自己管理能力」、「課題対応能力」、「キャリアプランニング能力」の四つの能力になります。この四つの能力の育成が、学校におけるキャリア教育の中心であること、このことをイメージ図では押さえているところです。</p> <p>今後は、このイメージ図を全小中学校に周知し、長崎市のキャリア教育に対する理解を深め、育成を目指す四つの能力の定着に有効なキャリア教育をさらに推進し、社会参画力を育み、長崎のまちを支える担い手を育てていきたいと考えております。</p>
市長	市長部局と教育委員会から整理の仕方について説明がありましたが、わかりにくいところやご質問などありましたらお願いします。
市長	市長部局の整理を踏まえたうえで、教育委員会風に整理しなおしたということでしょうか。
事務局 (教育委員会)	そうです。
委員	以前、少し内向きになりすぎていないか、もう少し外に向けての視点が必要ではないかということを委員がおっしゃったと思いますが、その点についてはどうでしょうか。グローバルな視点を身に付けるということでは入ってはきているんですが、どうでしょうか。
委員	グローバルな視点を身に付けるというところで、グローバルリーダー研修やイングリッシュキャンプなどがあり、世界を学ぶと書いてありま

	<p>すけれども、国内でも国外でもいいんですが、長崎以外の地域の子もたちとの交流というの必要になってきてるんじゃないかと思うんです。グローバルリーダー研修やイングリッシュキャンプなどこの辺に入ってくるということですか。</p>
<p>事務局 (教育委員会)</p>	<p>グローバルリーダー研修は次年度改めて取り組もうと思っている事業で、各中学校から2名ずつ集めてグローバルに活躍している方の話を聞いたり、あるいは英語で道案内ができるように復習をして観光地に出向いて実地で学ばせようという事業です。</p>
<p>市長</p>	<p>長崎以外のまちの人、国外の人などと交流したりすることで学ぶことがあるので、そういう事業はこの中に含まれていますか。</p>
<p>事務局 (教育委員会)</p>	<p>この中には含まれません。</p>
<p>教育長</p>	<p>この整理としては、長崎のまちを愛する気持ちとそれを行動に移す力の中に、例えばいわき市との交流など事業としてはあるんですよね。</p> <p>まちを愛する気持ち、そのことによって長崎のことを考えようというのがテーマとしてあると思うんですけど、他との違いという意味では、あわせてここのグローバルな視点を身に付けるというところに通じるというのはたぶんあるんだろうと思います。</p> <p>必ず一つに全部入ってしまうということでもないだろうという気はしますが、分けるとすると、ねらいとしては主にここですよという整理になっている気がします。</p>
<p>市長</p>	<p>教育委員会が実践例として書かれているのは、あくまでも事例という捉え方ですか。</p>
<p>事務局 (教育委員会)</p>	<p>そうです。事例や授業として行っている部分ですが、通常の学習活動の中では当然、教科や総合学習としてやっているものに加えて、この中には書いていませんが、国際理解教育という枠の中では、韓国や中国等からの修学旅行生との交流というのは毎年かなり多くの20、30ぐらいの数、学校交流は行っております。</p> <p>ただ、それに特化したものというのは確かにここに見えないなというところはあります。</p>

市長	他に隠れている事例はそれぞれにだけぶら下がっているわけではなく、一つの例ということですね。
事務局 (教育委員会)	先日、青潮学園の子どもたちがキルギスの生徒と平和について語るという取組みをしました。たまたま、長崎の先生がキルギスに海外協力青年隊で行っており、きっかけをつくってくださったというのもありまして、ピースネットを活用して三元中継のような形で行いましたが、学校レベルではそういうことも行っています。今の時代はそういうことができますので、今後も広げながら直接のふれあいとともに、ネットを使った海外との交流なども進めていきたいなという思いはあります。
市長	委員がおっしゃったことも含まれている。
事務局 (教育委員会)	そういう仕掛けをしたり、啓発事業をしたり紹介をするようなことをもっと仕掛けていかないといけないなという思いはあります。
委員	<p>関連なんですけど、長崎のまち（社会）を支える担い手を育てるので、交流した結果、じゃあ出て行こうとなるのではなく、それを長崎に活かすというふうにもって来ないといけないんだろうなという気はします。</p> <p>無理にではないですが、「やっぱり長崎はいいよね」、あるいは、「ニーズがあるんだよねじゃあ長崎に来てもらおう」というふうな。結局は担い手になってもらわないといけないので。私の願いはそういう形での交流です。</p>
市長	難しいところですね。出て行って世界で学びたいと思った子は出て行っていいと思うんです。でも、ふるさとを愛する気持ちや、帰れるチャンスがあれば帰りたいたいという気持ちは持っていてももらいたい。
委員	どうつなげるかなんですよね。
委員	交流の一つのめあては、井の中の蛙にならない、広い世界があるんだという視点を幼いころからしっかり持たせた上で、そして長崎にもこんなにすごくいいところがあるというのを両立させながらして行って、あとは子どもたちが長崎に残って支えようとか、1回は外に出てみたいと思う子どもたちとかいろいろいると思うんですけど、やはり、両方いる

	<p>んじゃないかなという気はしますね。</p>
<p>委員</p>	<p>それはやっぱり常に頭がないといけません。ただ、ずっと出て行きなさいよというものではないですね。</p>
<p>委員</p>	<p>そのために3ページに書いてある長崎市版キャリア教育の取組み方針の一つ目に「長崎のまちに対する誇りや長崎で活躍する人へのあこがれを抱くことができる取組み」これが私にとっては大切だと思うんですね。これを小学校の時からずっと地道にやっていけば、一回外に出てもやっぱり長崎はいいなと戻ってくる子どもたちもたくさんいるでしょうし、より広い視野を持って長崎に貢献できる子どもたちがくる。だから、まちの人たちとの出会いとか、祭りとか、いろんな生活の中でまちのおじさんおばさん、そういう人たちのつながりにかっこいいなと思うようなことを小学生の時から仕組んでいくことが大事かなと。そのためには地域の力というのは欠かせないんじゃないかなと思っています。</p>
<p>委員</p>	<p>3ページの体系図で、成長段階の「高校生」のところについて、市には商業高校は1つあるんですけど、たぶん広く高校生という意味だと思いますが、流れ的にはこれでいいと思うのですが、具体的にどういう形で市が高校教育との関りを持つのかお尋ねしたい。</p>
<p>事務局 (市長部局)</p>	<p>市立は商業高校しかありませんが、イメージとしては小学校から中学校までのいわゆる6年プラス3年、9年間の義務教育期間で養ったいろんな知識であったり、体験、能力を、高校に行ったら更に専門的に、特に商業高校だったら専門的になるので、そういった部分で知識、能力をもっと高めて行って、将来自立できるような力を身に付けていく。その中でここに書いている3つの視点を身に付けて、社会に出ても貢献できるような人材を目指すという意図です。</p>
<p>委員</p>	<p>場合によっては、長崎市の小中学校ではこうやってきてるよということを、高校の方にも知っておいていただいて、別にこのとおりにしなくてもいいかもしれないけど、この流れの上でこう意図していますということをお伝えすることはできますよね。</p>
<p>教育長</p>	<p>今の動きとしては、ここにたまたま企業見学バスツアーを記載しているけど、商工部あたりが高校生や大学生に対するアプローチとしては一</p>

委員	<p>部事業としてはやっている部分はあるんだろうということですよ。</p> <p>これは、市立商業高校ということではなく、長崎市の高校生ということですか。</p>
事務局 (市長部局)	<p>そうです。長崎市の高校生です。</p>
市長	<p>その意味では2つ方法があって、1つは県との役割分担なので、県の方にどういうふうに考えているのか。例えば、県もなるべく長崎に働く人たちを残したいというのはたぶん一緒なので、県として高校に対して取り組んでいることと役割分担しながらするという方法が一つあると思うんですが、そこは、県教委や県に対しても確認してみる。一緒にやりましょうと呼び掛けてみるというのはあっていいと思うんですね。</p> <p>もう一つは、高校生になったから市は手が出しにくいではなくて、高校生も長崎市民なので高校生に直接アピールしても悪いわけではないので。今一つ考えているのは、商業高校など特にそうなんですけど、例えば、チャレンジショップのように商業高校だからこそ、店を開いたりということをする時、長崎商業高校だけだと頻繁に開くのはきついだらうということで、他の高校などと例えば第1土日はどこの高校がする、第2土日はここの高校がするというふうに分担して、それぞれ作った製品をお互いに売ったりなどそういうチャレンジショップなどを開くとか、そういうアプローチはあっても全然おかしくないし、まさしく子どもたちのキャリア教育になっていたり、いろんなコミュニケーション能力を養ったり、そういうチャンスを市がつくるというようなことは十分あり得ると思うので。実際にそういう事例は全国でも増えていると思うんです。高校生レストランとかあったりしますし、そういうのはこの流れの中でやってみたいと思いますね。</p>
委員	<p>今、市立長崎商業高校は留学生を受け入れているんですか。</p>
事務局 (教育委員会)	<p>把握しておりません。以前は1人、2人程度、欧米からの留学生を受け入れていました。</p>
委員	<p>大学の話なんですけど、大分県別府市のAPUの学長の話を読んだんですが、今の学長が生命保険会社の社長をされていた方で、こういう場で</p>

	<p>こういうことを言うのはいかがかと思いますが、「偏差値の高い秀才は東大へどうぞ、面白いことが好きな方はうちへどうぞ」ということで、その大学は6千人の学生がいて3千人は外国からの留学生で、3千人のうち2千人は東京、大阪から来ている学生で、面白いことが好きな学生はうちへ来るんです。それで、今年か一昨年に三菱重工で一番採用している大学がそこなんです。APUの場合は、その学長になられてから学部ではなく組織として起業部というのをつくられて、学生に起業したい人はフォローするよと、そうするともう既に日本人の学生が1社、留学生が2社立ち上げている。それが結局、別府の力になっていくんだなと思ひ、教育とまちづくりが上手い具合にいついていいなと思ったところなんです。そういう意味で、長崎で何か商業高校あたりでそういう取組みができて、例えば、日本で将来起業したいというような留学生を受け入れるとか、それもまた長崎の子どもたちの刺激になったりいい関係になっていかないかなと思います。</p> <p>委員 教育委員会にしろ、3ページの体系図にしろ、知るあるいは資質を身に付けるというものが多と思うんですが、今おっしゃったように学生には仕事が見つからないという学生がいて、見つからないなら自分でやりたい仕事をつくればどうなんだと言ってるんですけどね。そういう考え方もこのキャリア教育の中に、つくってもいいんだよというようなことも。観光にしろ何にしろ、長崎でできそうな材料はこんなものがあるよと。そんな考え方もどこかにあるのかもしれませんが、あってもいいのかなと。</p> <p>それから、キャリアパスポートというものを国立教育政策研究所が出しているんですが、子どもたちがいろんなキャリア教育でいろんなことを知ったり体験したり、ここにも低学年からずっとありますよね、その段階ごとに何をやってきたというのを振り返って、それがどうなりそうだなみたいなことをずっとポートフォリオしていついていかないと、キャリアが蓄積していかないんじゃないか、結局、何をやってきたか振り返りも見通しもないまま、出口のところじゃあ実際何をしてきたのかということになりはしないかと思うんです。</p> <p>具体的な実験結果があるんです。ポートフォリオをつかった子たちとそうでない子は違うんですよね。あるいは、先生が利用した先生と利用しなかった先生では、子どもたちもキャリアへの考え方が違うという結果があるので。市で何かありますか。パターンをつくってしまった方が良くないかなと思います。</p>
--	---

事務局 (教育委員会)	<p>キャリア教育の研究指定校である野母崎小中学校などが今研究の中でキャリアパスポートを作成して、来年度の発表のなかでそのキャリアパスポートについても紹介していく予定です。</p>
委員	<p>効果があれば全市的に導入されるんですか。 そのための研究だろうと思いますので。</p>
事務局 (教育委員会)	<p>今年、キャリア教育の研究指定校で福田小学校が発表したんですが、具体的なキャリアパスポートのような形としてはまだないんですけど、協議の中でやっぱりキャリアパスポートをしっかりとつくった方がいいんじゃないかという意見も出て、ポートフォリオなども含めながら検討していきますというところです。</p>
委員	<p>研究ではそれを個人で所有して小中高校まで持っている事例もありますね。</p>
市長	<p>色々ご意見が出ていますけれども、今回は事例を挙げながらこれまで議論してきたことをこういう形で整理をしましょうということなので、これを実際具体的にどういう展開していくのか、1年経って何がどう展開されたのかというのをしっかり検証したり、具体例を当てはめていく中でおそらくまだ抜けている部分が見えて来たり、一部の子どもたちは確かに経験しているかもしれないけど、全員が種を植えてもらったわけではないよという部分などが見えてくると思うので、そういった部分ではまた1年後、2年後などにこの件について検証をしてみるというのも必要じゃないかなという気がしますけど。 今回は大まかにこういう形で整理して行って、また、時間を置いて少し実践例を報告する中で考えていくということでもよろしいでしょうか。</p>
市長	<p>次に、名称案について、これもこれまで議論してきた件ですけども、事務局から説明をお願いします。</p>
事務局 (市長部局)	<p>資料2ページ下の部分をご覧ください。 議題の2点目「長崎市版キャリア教育」の名称についてですが、先程ご説明したとおり、第2回総合教育会議でも、分かりやすいネーミングをつけてはどうかとの意見がありました。</p>

	<p>日向市では「よのなか教室」、長崎県でも「ふるさと教育」とネーミングをつけて事業を進めており、長崎市においても学校・家庭・地域への浸透を図り、それぞれの事業主体が当事者として取組みを進めるために、ネーミングをつけたいと考えております。</p> <p>事務局では、3つの名称のアイデアを考えました。</p> <p>まず、1つ目の「長崎担い人（にないびと）教育」ですが、これは、「担い手」を「にないびと」と読ませるところがポイントと考えております。</p> <p>2つ目の「長崎リーダーズ」ですが、「リーダーズ」は英語で担い手を意味するところです。3つ目の「長崎の担い手づくりプログラム」は、成長段階に応じた取組みをするということを方針として定めていますので、そこを意識したネーミングということで考えてみました。</p> <p>委員の皆様には、事務局が考えたネーミングのほか、何かわかりやすいネーミングがあれば、ぜひアイデアをいただければと考えておりますので、よろしく申し上げます。</p>
市 長	<p>キャリア教育というのが一般的に呼ばれていて、定義もされているものなので、この言葉を使うことでどうも狭くなっているなど、私たちが議論してきた分がはみ出してしまうんじゃないかということで、新しい名前を付けた方がいいんじゃないかということで、今、事務局から3つアイデアが出ていますが、これ以外のアイデアも結構ですので、ご意見をぜひお願いしたいと思います。</p>
市 長	<p>名称案にあがっている分についてはどうでしょうか。</p>
委 員	<p>教育という漢字を使うと、いかにも教育だなという印象があるので。でも、ふるさと教育も教育が付いているんですね。</p>
市 長	<p>ふるさと教育とはまた違いますからね。</p>
市 長	<p>この中でこれがいいとか、これ以外でこんなのはどうかとかご意見があればお願いします。</p>
委 員	<p>教育委員会から少し外れてしまうかもしれないんですけども、今、長崎市が取り組んでいます「長崎LOVERS」のプログラムがありますよね。長崎LOVERSの考え方と非常にリンクすると思うんですね。例えば、長崎市としていろんな施策をやっていかれるなかで、キャ</p>

	<p>タッチコピー的なものが多種多様出てくると、逆のぼやけてくるような気がするものですから、例えば、「長崎LOVERSプログラム」とか、それこそ長崎LOVERSを育てていきたいと思いますという感覚の方が市として施策の一本化的な感じがするのかなと思います。</p> <p>この前、長崎LOVERSに関わったという広告代理店の方と話をさせていただく機会があったんですが、非常に深いところまで考えておられるなと思ひまして、これからどんどん浸透させていってもらいたいと言われていたんです。その方は東京の方なんですけれども、東京から常に長崎の発信をしているような人でした。</p>
委員	<p>名称は永遠にこれじゃなきゃいけないというわけじゃないですよ。</p>
委員	<p>長崎にいて、長崎のこういうところがいいよというのもいいんですけども、県外に出たからこそ長崎の良さがわかった人もたくさんいて、先ほどのその東京から発信されているというふうにもっともっと県外の方たちから長崎って出てみたらこんないいところだったみたいなそういう発信をしてもらおうと、長崎に住んでいる人たちも改めて気づく。</p>
委員	<p>先ほど言いました広告代理店の方が、東京でいわゆる県人会みたいなものとは全く別で、SNSを通じて東京在住の学生や社会人の若手の人たちに声を掛けて、長崎人として飲み会やろうと、そうしたら100人200人すぐ集まったらしいんです。長崎人の特徴というのは、なんだかんだ言いながらみんな長崎が好きで、長崎は田舎よねあれもなかね、これもなかよねと言いながら、それを肴にしていたそうです。</p>
市長	<p>「長崎LOVERS育成プログラム」</p>
委員	<p>いいですね。</p>
委員	<p>LOVERSのところですね。私は「長崎ねこLOVERS」と「長崎ココデショLOVERS」なんですけれども、そこを職業とか、物とか長崎に関連づけたら。</p>
市長	<p>その学年毎に四角の中に何か入れてもらおうと、最初は猫だったけど、次はちゃんぽんが好きになってみたり、くんちLOVERSになってみたり、その変遷とか面白いかもしれないですね。</p>

市 長	長崎LOVERS育成プログラム。 長崎LOVERSプログラムだとなんとなく。
委 員	育成があるとカリキュラムになる。いいんじゃないですかね。
市 長	「長崎LOVERS育成プログラム」という名前にしましょうか。
委 員	いいと思います。
市 長	それでは、名称は「長崎LOVERS育成プログラム」でいきたいと思 います。
市 長	キャリア教育についてはこれで終わりになります。他に何かキャリア 教育についてご意見ありませんか。
事 務 局 (教育委員会)	先ほどの留学の件について報告します。 長崎商業高校の留学生の件について、受け入れは毎年しているそう です。7月から2月の8か月間タイから高校2年生を毎年受け入れていま す。逆に、短期で留学に行っているのは、夏休みに15日間、アメリカ、 カナダ、オーストラリア等に10名程度、今年度は11名ですが、毎年学 校の海外研修プログラムで行っています。来年度はカナダに行く予定で す。他にも県のプログラムを利用して韓国や上海に短期で行く人もいる ということです。受け入れは1名です。
市 長	他に、委員の方からはキャリア教育についてはよろしいですか。
市 長	では、次に移りたいと思います。(2)意見交換事項 来年度の議題に ついてです。事務局から説明をお願いします。
事 務 局 (市長部局)	資料5ページをご覧ください。 今年度の第1回会議の際にお示した資料ですが、下の表の2の③ 平 成30年度の3月の本日の会議では、まず、平成31年度予算化された事業 の報告をすることとしておりましたが、4月に市長選挙が行われることか ら、平成31年度当初予算は骨格予算であり、新規、拡大事業に係る予算 は、原則として市長選挙後の6月議会に提案することとしております。

	<p>よって、平成 31 年度予算化された事業の報告は、次回の会議で報告させていただきたいと思います。</p> <p>もう一つの議題が、翌年度の議題についてご協議いただきたいと思いますが、資料 5 ページの上の表には、これまでの協議・調整事項を記載しております。なお、平成 28 年度の第 3 回の②子どもの貧困については、今年度の県が子どもの貧困実態調査を行っており、その調査結果が本年 6 月頃にはまとまると聞いております。</p> <p>次に、資料 6 ページには、会議の議題の選定に関する考え方として、1 (1) 長崎市教育大綱の基本理念の実現につながる議題、(2) 教育行政を担う教育委員会と教育行政の予算の編成や執行権を有する市長の双方の連携が必要な議題、(3) 総合教育会議において調整が行われた方向性を尊重して成果につながる議題としております。</p> <p>次に、資料 7 ページには、文部科学省が全国の自治体に照会し、総合教育会議の実施状況等をまとめた資料の中に、各都市の総合教育会議の内容(議題)について取りまとめた資料です。これらの資料を参考に、来年度の議題について、ご意見等をいただきたいと考えておりますので、よろしくをお願いします。</p>
市 長	<p>来年度の総合教育会議の議題を何にしようかという話ですけども、全国的な傾向については 7 ページの資料ということですけども、市によって様々で、たぶん総合教育会議の雰囲気であったり、扱うテーマの傾向なども市によって違うんだと思うんですけども。長崎市の場合は 1 年かけて一つのテーマを議論しながら、それを予算化まで進めていくというような感じでこれまでやってきていますが、これも別に形がきっちり決まっているわけではないので、その時々に応じて変わってもいいと思うんです。何か来年度のテーマとしてこういったものはどうかなどご意見がありましたらお願いします。</p>
委 員	<p>私は個人的に家庭教育ですね。虐待があったり、スマホや色々な事、学校だけではなかなか済まないような子どもたちの問題を、小中学校じゃなくて幼児期から何か取り組めないかなと思いますね。</p> <p>関連してちょっと見ていただきたいんですが、今年 2 月の長崎新聞によると、こども総合相談の相談件数が増えているんです。窓口が来やすくなったから増えたのか、実際に虐待などの数そのものが増えているのか。</p> <p>そういうこともあって、保護者の方がなかなか育て方が分かってない</p>

	<p>のかなと。</p> <p>先だって小学校のPTAの育友会で講座を開かれていて、集まったお母さん方といろいろお話したら、子育てがわからないとおっしゃっていたんですけど、そうなのかと思いました。</p>
市長	<p>赤ちゃんの時からということですか。</p>
委員	<p>そうですね、幼児期。今回は小学校の保護者の方だったので、小学校5年生と中学2年生の子どもがいるんだけど難しいということをおっしゃっていましたね。</p>
市長	<p>ファミリープログラムから子育て支援センターまで様々、かなり幅広い感じですね。少し絞られたらテーマにいいですね。</p>
委員	<p>ファミリープログラムもなかなかいいと思います。</p>
市長	<p>家庭教育などをテーマにする時には、できればPTAにも入ってもらって現場のことなど。そうしないと隠れてしまうので。</p> <p>先ほどの貧困の話なども6月に長崎市の結果が出るんですか。</p>
事務局 (市長部局)	<p>県下全体で結果が出て、長崎市分というのは出ないということです。</p>
市長	<p>結果をもらって分析はできませんか。</p>
事務局 (市長部局)	<p>県に確認します。</p>
市長	<p>次の回の議題はどうなりますか。</p>
事務局 (市長部局)	<p>今日の会議で議題の候補が出れば、事務局で関係部局と調整をして、委員の皆さんと事前調整をしてから会議に臨むという方法もあると考えています。</p>
市長	<p>何か次の会議かけてみたい、1年かけてではなく次の会議だけ議論してみたいという議題でもいいので何かありませんか。</p>

委員	7ページの資料では、幼児教育、保育の在り方、青少年健全育成、子育て支援など家庭教育を絞るとするとそのあたりを議題とされているみたいですね。
市長	子育て支援全体を話すとかかなり広いので、少し絞っていくつか案をつくってみますか。子育て支援全体がどういう考え方で、どういう形で整理されているのか次回教えてもらって、その中で、少しテーマを絞りながら議論していくという形にしましょう。
委員	そうですね。施設であったり、親の技術的問題であったりいろいろありますからね。
委員	長崎市の不登校の実態はどうですか。増えていますか。
事務局 (教育委員会)	小学校は増えており、中学校は減っています。
委員	トータルではずっと横ばいです。
事務局 (教育委員会)	そうですね。ただ、児童生徒数が減っている中で横ばいなので、率としては増えていますね。 先ほど言いましたように小学校が増えてきているというところがなぜなんだろうという思いがあります。
事務局 (教育委員会)	これは低学年なんです。2年生から3年生に上がる時が一番増加率が高くて、だんだん減っていくんですけども。なかなか、仲間づくりができないとか、コミュニケーションがとれないというのが一つ課題だなと思います。
委員	私は孫の家庭教師をしてるんですけど、教科でも3年生ぐらいから計算なども難しくなりますよね。一番大変だったのは4年生の夏休みで、割り算のひっ算の4桁割る3桁などがものすごく大変だった。3年生は教科の方も難しくなったなと感じましたね。
事務局	不登校も含めて最近の傾向として子どものトラブルに関して親が出て

(教育委員会)	<p>くる。子どもの顔がなかなか見えなくて保護者の方が出てきて訴えることが非常に増えてきています。</p> <p>内容は小学校低学年によくあるちょっとした子ども同士のトラブルなんですけど、それを大きなじめ問題として「もう学校には行かせません。」というようなところもあって、そこがやっぱり相談する人たちがいかなかったりとか、今のいろんな社会環境というのもあるのかなという気もしてます。そういう問題が低年齢化してきているというのは確かにあるような気がします。</p>
事務局 (市長部局)	<p>ゼロ歳から18歳まで広いので、子育て支援と言ってもどのあたりをターゲットとして話をするのか、全体像は見せられるんですけど、どういうところでしょうか。</p>
委員	<p>とりあえず小学1年生ですがその一歩手前。</p>
事務局 (市長部局)	<p>それから中学生まで。</p>
委員	<p>そうですね。</p>
市長	<p>子育て支援はちょっと広いので、先ほど委員がおっしゃった親の子育て教育という「親を支援する」ということについてどうなのかっていうのもありますよね。</p>
委員	<p>広い意味では生涯学習ではあるんですよ。</p>
委員	<p>親御さんたちがバラバラな考えを持っているとなかなかね。</p> <p>今おっしゃったように「基本はこうじゃないですか。」というふうに柱があれば、「基本はそうなのか。」というふうになるんですけど。</p>
市長	<p>それを市PTA連合会の方に聞いてもらってやる、それをするなら入ってもらわないと。</p>
委員	<p>押しつけみたいな感じになってもいけないですからね。</p>
市長	<p>そうなると何か違う感じになるので。</p>

市 長	何か他の案はありませんか。
委 員	私は子どもの貧困について関心が強くて、長崎市内でも学校ごとに支援をされているところもあったりして、その話を聞くと地域の方が一生懸命されているんですね。それを参考にしていろんなことが自分の足元でもできないかなというふうに思っているんですけど、そういうやり方とか、どういうやり方で貧困の子どもたちを支えて行けばいいのかということを知りたいなと思いますね。
委 員	<p>今、シングルのお母さんたちがすごく増えていて、本当に余裕がなくて土日仕事で、子どもたちはお金を渡されてご飯を食べておきなさいという感じの子どもたちが増えてきているみたいです。そこは貧困につながる。習い事もほとんどしてないし、もちろん勉強もほったらかし状態で学力も上がらないし、やっぱり、そこにつながっていくのかなと感じています。</p> <p>支援センターに来ているお母さんたちは、時間も余裕もあるけど来られないお母さんたちはなかなか難しい。小学校に入っても難しい。</p>
市 長	それも貧困ですね。
委 員	<p>総合教育会議の議題として合うのかわからないんですが、社会的に問題になっている先生方の働き方改革はどうなんでしょうか。</p> <p>それと、全く別なんですけど、最初に市長がおっしゃったように検証するという意味でも、伊良林小学校での平和教育の授業見学は現実的な授業を見ることができて、非常に良かったなと思います。また、その後の総合教育会議もよかったと思うので、次年度もし可能であればキャリア教育の検証ができればと思います。</p>
市 長	それはいいですね。
委 員	私はみなさんおっしゃったこととかすりつつ、ちょっと違う感じなんですけど、先生方をサポートするというようなテーマで、例えば今の働き方改革もそうですし、今問題になっている児童虐待の関係で、先生たちはどうやって見つけていくのか、それを教育委員会、市としてどうやってサポートできるのかとか、あるいは、先ほどお話がありましたけ

	<p>ど、いろんな親が校長先生を含めて先生方にいろんなことを言ってくるというのがあると思います。</p> <p>県の方の救う制度で先生方はすぐ弁護士に相談できますという制度があり相談に乗ったりしてるんですが、そこで校長先生はすごく孤独な戦いを強いられていると感じていて、親などから言われていて、そこで教育委員会に相談すると、教育委員会は全然違うことを言ってきて、どうしていいかわかりませんというようなこともあったりですね、孤独を強いられている中で、すごく迷っていらっしゃるのを感じるので、先生方の働き方改革をやったり、いろんな親から言われたことについて、どうやってサポートしていくのか、たぶん、児童虐待を見つけて通報するというのは大変だと思うんですね。そこについて何かサポートできることはないのかということについて実態把握をしてもいいのかなと思います。</p>
教 育 長	<p>今、考えにあるのは、先ほどの働き方改革とICT環境の整備というのはこの資料にもあるんですけど、ICTについては早急に内部的には整理をしなければいけないなということで来年重点的に考え方を整理しようと思ってる場所ですので、そういうテーマであれば一緒に委員の皆さんのご意見を聞きながら整理できるかなという思いはあります。</p>
市 長	<p>いろいろご意見を出していただいたんですが、子どもの貧困については、6月に県からの報告が出てくるのであれば、それを一つのテーマにして、もう一つ、先生の働き方改革であったり、先生方の支援であったり、ICTなどについては教育委員会の方で総合教育会議にかけた方がいいのか、それともまず教育委員会の中で議論をする方がいいのか少し検討していただきたい。</p> <p>貧困の話はタイミング的にも合うので、一度テーマにして、データをしっかり説明してもらいながら、もし、市のデータが入り分析する時間があれば分析して。これは市長部局も非常に密接にかかわっているので議論したいテーマでもあります。</p> <p>その他のテーマについては一つに絞る必要はないので、これについても総合教育会議で是非議論してもらいたいというのがあれば、教育委員会の中で一度議論してもらって提案していただければと思います。ということよろしいでしょうか。</p> <p>それから、キャリア教育の現場を見に行くことを1回入れてください。</p>

市	長	それでは、(3)に移りたいと思います。本日の議題以外のことで何かご発言等ありましたらお願いします。
市	長	なければ、本日の長崎市総合教育会議を終了したいと思います。ありがとうございました。
		【17：13 閉会】